

ナプロアース社長通信_第 11 回

今回のテーマは「感謝する気持ち」です。

最近、メディアに出演している政治家の話を聞いていると、『日本はあれが駄目、これが駄目』だと悲観的な発言が蔓延しているように感じます。本当に私たちが生活している日本の環境は駄目な状況なのでしょうか？少し掘り下げて考えてみましょう。

悲観的つまりネガティブに考えると、その後のことが良いイメージにつながりません。良いイメージが湧かないということは、未来に希望を抱けないということです。人は何かしらの“達成できる = 希望の持てる”目標に向かって頑張るものです。

だから、ポジティブな人は、●リスクを負って未来に投資してみる、●思い切って大胆な行動を取ってみる、などの傾向が強く、反対にネガティブな人は、★過去のことにいつまでもすがる（過去の武勇伝をいつまでも語る）、★結果が計算できることにだけ挑戦する、★未来ではなく今楽しむことが優先、といったように、目の前のことに流されがちになります。一言でいうと“ディフェンシブ”な生き方です。このディフェンシブな考え方を推奨する人が増えてきているので、先ほどの《悲観的な発言》につながっているのかもしれない。

ネガティブの悪い未来を予測する能力は、リスク回避という点においては最大の武器なので否定はしませんが、私はリスクを負って未来を追求したり、思い切って大胆な行動を取れるポジティブな人と一緒に仕事を続けていきたいと思っています。尚且つ、以前の社長通信で伝えた通り、今の生活や環境、他人に対して「感謝する気持ち」を持っている人と一緒に仕事をしたいのです。

感謝の気持ちを持って接すれば、周りによい影響を与え、居心地が良くなる空間を生み出し、多くの方に幸せを分け与えると私は信じています。私も若いときの大半の時間を責任転嫁してネガティブに生きてきました。いつも他人と比較して不満ばかりを募らせていました。しかし、海外を訪問する機会に恵まれ、その実情を見聞きしたおかげで、私たちに与えられている環境の素晴らしさを再確認できました。

つまりは、同じ一生を送るなら与えられた現状に心底感謝しながら、明るく幸せに生きていった方が、良い人生を過ごせるのではないかと、今では思えるようになりました。

親・友人・家族・同僚に『ありがとう』と感謝を伝えるように生きていけば、人生は良きものへと変わると私は信じています。明石さんまさんが座右の銘で使っていた『生きてるだけで丸儲け』というポジティブな発想で、悔いの無い人生を歩み続けて欲しいと切に願っています。

もうひとつ伝える事がありました。それは、いつの日か、みなさんも「死」に直面します。これは誰もが避けて通れない運命です。病気なのか…、寿命なのか…、それとも事故なのか…その「死」というものに向き合った時、『私の人生は幸せだった』もしくは『満足だった』と言える生き方をして欲しいとも思っています。

平成 30 年 4 月吉日 池本 篤